

全館統一展示
小説メシレシピ

〇〇の秋！

と聞いて一番に“食欲”が思い浮かぶ方が割合的にも多いそうです。

本を読んで美味しいものに思いを馳せる『読書で食欲の秋』を過ごしませんか？

西東京市では現在、食欲を刺激するおいしいご飯やレシピが載った小説を集めた展示を開催中です。

その中から数冊をピックアップしてご紹介します。



植物図鑑

有川浩／著、角川書店、2009.6

ISBN: 978-4-04-873948-1

『ノビルのパスタ』

食堂かたつむり

小川糸／著、ポプラ社、2008.1

ISBN: 978-4-591-10063-9

『鯉と昆布の出汁茶漬け』

食堂つばめ

矢崎存美／著、集英社、2013.5

ISBN: 978-4-7584-3737-0

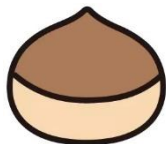
『ハムサンドと玉子サンド』

八朔の雪-みをつくし料理帖-

高田郁／著、角川春樹事務所、2009.5

ISBN: 978-4-7584-3403-4

『ぴりから鯉田麩』



BUTTER

柚木麻子／著、新潮社、2017.4

ISBN: 978-4-10-335532-8

『バター醤油ご飯』

たそがれ大食堂

坂井希久子／著、双葉社、2021.9

ISBN: 978-4-575-24441-0

『包んだオムライス』

第14回

書名でしりとり

書名の最後の1字で次の本へつなげていく
企画、第14回の文字は前回の書名から
「り」です。

『リセットを押せーゲーム業界における
破滅と再生の物語ー』
(ジェイソン・シュライアー／著 グローバリ
ゼーションデザイン研究所 2022.6)

ブルームバーグ・ニュースでビデオゲーム業
界を担当する記者である著者が、「なぜビデ
オゲーム産業では雇用を守るのが難しいの
か？」という問題に、当事者たちへの取材を
通して切り込んだ作品。私たちに刺激や楽し
みを与えてくれるゲームの裏側に迫った、
ニューヨークタイムズ紙ベストセラーです。



ちらっと

Chiratto
Vol.43

2023年10月-2023年11月号

特集1

全館統一展示
「小説メシレシピ」

特集2

司馬遼太郎、生誕100年

連載

書名でしりとり

お知らせ

西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

司馬遼太郎 生誕100年



「司馬史観」に基づいた歴史の新境地を開き、昭和を代表する歴史作家として、小説のみならず歴史随筆、紀行文、伝記等を多数残した司馬遼太郎。今年で生誕100年を迎えます。

司馬さんの仕事

『司馬遼太郎全仕事』

文藝春秋／編 文藝春秋 2013. 6

国民的大ベストセラー小説、日本の歴史と土地を俯瞰する名エッセイ群、評論、各界著名人との対話集、書簡、戯曲など、司馬遼太郎生誕90年に贈る全作品完全ガイド。名場面、人物紹介、関連年表、紀行マップを収録。

『司馬遼太郎全作品大事典』

新人物往来社／編 新人物往来社 2010. 11

司馬遼太郎の全作品を長編小説、紀行、座談会・対談、エッセイなどのジャンル別に分類し、作品データや概要を掲載。作品年譜、主要人物索引付き。松本健一の巻頭論「司馬遼太郎が守りたかった日本の原理」も収録。

司馬さんを知る

『文豪ナビ司馬遼太郎一大きな志。そして小さな日常。一』

新潮文庫／編 新潮社 2021. 2

歴史のなかの人物を掘り起こし、新たな命を吹き込んだ司馬遼太郎。日本とは何か、日本人とは何かを問い続けた国民的作家の魅力に迫る。代表作のジャンル別紹介、くわしい評伝、コラムや讀物などを収録。

『司馬遼太郎の時代－歴史と大衆教養主義－』

福岡良明／著 中央公論新社 2022. 1

日本史を主たるテーマに、人物を個性豊かに、現代への教訓を込めて作品を記した国民作家・司馬遼太郎。その生涯を辿り、作品を紹介しつつ、その歴史小説の本質、多くの人を魅了した理由を20世紀の時代とともに描く。

『「司馬さん」を語る－菜の花忌シンポジウム－』

司馬遼太郎記念財団／編 文藝春秋 2023. 2

司馬遼太郎が好きだった花に由来する「菜の花忌シンポジウム」。安野光雅、井上ひさし、檀ふみ、藤本義一ら親交が深かった人・作品を愛する人たちが、「司馬さん」を語った第1～26回のシンポジウムを振り返る。

西東京市図書館からのお知らせ

ミニ自分史講座

一枚の写真からあの頃をふりかえってみよう
(全2回:11月11日(土)、12月2日(土)どちらも午後2～4時
場所:田無公民館)

ご自身の思い出の写真一枚から、それにまつわる1200字程度のエッセイ(ミニ自分史)を作成します。

【申込】10月17日(火)午前10時から、
電話(中央図書館・042-465-0823)、
来館(中央図書館・南町5-6-11)または
メール(右のQRコード)で受け付けます。



FM西東京で紹介した本

『数学者たちの黒板』

(ジェシカ・ワイン／著 徳田功／訳、草思社、2023.7)

数学者109人の板書の写真と、その黒板にまつわるエッセイを収録した本。写真家である著者は、数学者が取り組んでいる複雑な数学の世界を理解し、探索するのにいつもカメラを使ってきた、と話します。原タイトルは「DO NOT ERASE」つまり「消すな」。「あらゆる偉大な芸術家の作品と同様に、彼らの作品は、保存され、尊ばれ、認識されるべき」という著者の意志の表れでしょう。

『戦国日本を見た中国人 －海物語『日本一鑑』を読む－』

(上田信、講談社、2023.7)

戦国時代の最中、倭寇禁圧を要請しに来日した明の使者、鄭舜功(てい しゅんこう)のルポ『日本一鑑』。倭寇の印象が支配的だった当時の対日観を離れ、日本人は当たり前として記録せず、西洋人は見落としていた日本の実像を描いています。硝石(火薬原料)の交易と戦国時代の終焉の関係を導き、戦国日本をアジアの海上世界に位置付けた力作です。

発行:西東京市図書館

<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>

